

奥田一重先生と行く第75回正倉院展と古墳が語る古代史 奈良2日間



「旅のお勧め」

正倉院展は、今年、一つの節目の75回目を迎えます。敗戦直後の昭和21年(1946年)、地元奈良の人々の、宝物公開の陳情から始まった正倉院展は、その後、様々な人々の熱意や援助に支えられて、一度も途絶えることなく、毎年秋に続けられてきました。正倉院宝物は、凡そ6千点にのぼるといわれています。その中から、毎年50点余りの宝物が、10月末から11月初旬にかけて、2週間余、奈良国立博物館で公開されてきました。これまで、延べ4千点余の宝物が展示され、現代の私たちに「天平時代の美」を伝えてきました。また、それらの宝物を通じて、その背後にあった奈良時代の人々の生活や、文化について、私達に様々な事を語りかけてきました。75回目にふさわしい宝物が展示され、私達の前に、天平時代の美の姿を、現してくることを楽しみにしたいと思います。

正倉院展見学の翌日は、今回、飛鳥時代の古墳群と石造物を巡ります。飛鳥の古墳群が、注目される契機となったキトラ古墳の発見から、こちらも、今年で45年目を迎えます。この間、数々の古墳や、石造物が発見され、又、それらの遺跡の研究や整備事業も進みました。「飛鳥三大古墳」ともいわれる藤ノ木古墳、キトラ古墳、高松塚古墳は、それぞれ整備が進み見学設備も整いました。そして、世界遺産に登録する準備が進む牽牛子塚古墳群なども注目です。また、飛鳥に多くみられる謎を秘める石造物。酒船石、亀形石、益田岩船などを訪ね空想を膨らましてみます。 奥田 一重

【講師 奥田一重先生プロフィール】

奈良市観光大使
元NHK正倉院プロジェクト取材班
統括プロデューサー、
日本記者クラブ会員
NHK文化センター
千葉教室、柏教室にて正倉院に関する講座の講師を務める。



●正倉院に関する著作
「ドキュメント正倉院」日本放送出版協会 / 「正倉院の宝物・ビデオシリーズ」NHKエンタープライズ

日付	スケジュール
1 10/31 (火)	ホテル日航奈良 (12:45集合) ホテルにて 奥田先生による「正倉院展見学の事前講座」(13:00~13:50) ホテル --- (公共路線バス) --- 奈良国立博物館 「正倉院展」各自鑑賞*特別展 (15:00~) その後自由行動 ※夕食は各自にて (ご夕食オプションあり) ホテル日航奈良 (泊)
2 11/1 (水)	ホテル(8:15発) --- 藤ノ木古墳 (見学) --- 黒塚古墳・展示館 (見学) --- 飛鳥資料館 (見学・昼食) --- 酒船石・亀形石槽 (見学) --- 高松塚古墳 (見学) --- キトラ古墳(見学) --- 岩船寺牽牛子塚(見学) --- 益田岩船[石造物] (見学) --- 近鉄橿原神宮前駅(17:20頃 解散予定)

※上記日程はコロナ状況・現地事情・交通事情等により変更になる場合もございます。(見学場所など)

募集要項

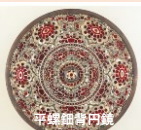
- 旅行期間:2023年10月31日(火)~11月1日(水) 1泊2日
- ご旅行代金: 2名1部屋利用:69,500円/1名1部屋利用:74,000円
*上記料金は現地費用となり集合解散場所までの費用(自宅→JR奈良駅/近鉄橿原神宮前駅→自宅)までの移動交通費は含まれておりません。
- 旅行代金に含まれるもの:ホテル1泊・朝食1回・昼食1回・専用バス代(2日目)・講師費用(講師料/旅行代/食事代)・添乗員費用
- 募集人数:25名(最少催行人数15名)
- 募集締切日:2023年10月6日(金)*定員になり次第締め切りとなります。
- 添乗員:1名同行致します。(集合地から解散場所まで)
- 宿泊先:ホテル日航奈良 *奈良を代表するホテル、JR奈良駅西口直結(徒歩3分)の好アクセスで便利な立地です。大浴場もあります。
- 利用予定バス会社:奈良交通 (貸し切り専用バス=2日目のみ)
- 集合解散場所:ホテル日航奈良集合(12:45) / 近鉄橿原神宮前駅解散(17:20頃)
- *最小催行人数に達し催行決定となりましたらお客様にご連絡させていただきます。ツアー催行決定後にお客様ご自身にて集合解散場所までの交通手配(新幹線等)をお願いいたします。
- 想定列車 往路:新幹線のぞみ19号 博多行き 東京駅09:09発→京都駅11:21着 / JRみやこ路快速 奈良行き 京都駅11:37発→JR奈良駅12:21着 (参考) 復路:近鉄特急 京都行き 近鉄橿原神宮前駅17:50発→近鉄京都駅18:43発 / 新幹線のぞみ48号 東京行き 京都駅19:01→東京駅21:15着
その他JR・新幹線スケジュール等不明な点などございましたら、どうぞお気軽にお問合せください。手配手数料(¥1,100)がかかりますが弊社にてお手配することも可能です。

第75回正倉院展

特別展

この時期だけの特別展となります。

正倉院宝物は、東大寺の重要な資財を保管する倉であった正倉院正倉に伝来した宝物群です。正倉院展では、およそ9000件にも上る正倉院宝物の中から毎年60件前後が公開されます。75回目の開催となる本年も、調度品、楽器、服飾品、仏具、文書といった正倉院宝物の全体像がうかがえるラインナップで、宝物の魅力を残すことなく伝えます。本年は『国家珍宝帳』の筆頭に記載される「九条刺繍樹皮色袈裟」(刺し子縫いの袈裟)をはじめ、「漫背八角鏡」(無地の花形鏡)や「鳥草次細屏風」(極め染めの屏風)などが出展されます。中でも袈裟は、聖武天皇の仏教への篤い信仰を象徴する品として、正倉院宝物を代表する屈指の名宝です。正倉院には、奈良時代に宮廷や寺院内で使われた楽器や調度品のほか、貴人たちのアクセサリなども伝わっています。「楓葉芳染螺鈿槽琵琶」(螺鈿飾りの四絃琵琶)は、槽に施されたきらびやかな螺鈿の装飾が目目を惹く一方、撥ばち受けには中国・盛唐期の画風にもとづく山水画が描かれ、奈良時代の異国趣味を濃厚に示しています。「平螺鈿背円鏡」(螺鈿飾りの鏡)や「銀平脱鏡箱」(鏡の箱)といった品々にも、螺鈿・金銀・珠玉類など高級な素材が惜しげもなく使われています。これらの宝物を通して、奈良時代の貴人たちの異国情緒あふれる華やかな暮らしが垣間見られます。

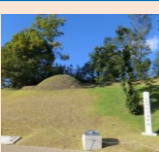


藤ノ木古墳



直径50メートルの大型円墳。飛鳥「三大古墳」の中で最初に発掘され、昭和60年(1985年9)以降、6回に渡り調査が行われてきました。天皇家や皇族に使われた家形石棺には、2体の遺骨と、多数の銅鏡や大刀、馬具、冠などが、未盗掘のままほぼ完全な形で見つかりました。

キトラ古墳



高松塚古墳と並ぶ円墳の壁画古墳。壁画古墳は、飛鳥では高松塚とこの2例しか発見されていません。石室の内には、東西南北の4つの壁の中央に、青龍、白虎、朱雀、玄武の四神。天井には天文図が描かれている。この天文図は、現存する世界最古の精密な天文図といわれています。金箔の貼られた北斗七星も輝く。被葬者は、やはり天武天皇の皇子とする説がある。平成25年、保存の為埋め戻され、現在はそのレプリカが、四神の館で公開されています。

高松塚古墳



天皇の6世紀、古墳時代の終末期を代表する円墳。1970年に村人により発見。1300年ほど前の墓室が発掘され、藤原京時代のものと確定された。国宝となった墓室の壁画には、「飛鳥美人」といわれる華やかに着飾った男女16人の人物群像が描かれ、当時の宮廷生活の華やかさが感じられる。壁画は、資料館に保存されます。残された人骨は、160センチ前後の男性とみられ、天武天皇の皇子とする説が有力。忍足、高市、弓削皇子など。

牽牛子塚古墳



最近、世界遺産登録への動きで、注目を集めている。7世紀後半に造られた珍しい八角墳。江戸時代からその存在が知られ、八角形の形をしていることから、「あさがお塚」と人々に呼ばれていました。対辺22メートルの八角墳。石室内には2つの墓室が設けられています。大玉墓(天皇陵)のみに採用されている八角墳であること、埋葬施設が豪華であることなどから、「日本書紀」に記されている齊明天皇と間人皇女が、合葬された陵墓の可能性が高いと、いわれています。

酒船石



飛鳥板蓋の宮跡の東の丘陵上にある。長さ5.3mの石英閃緑岩で造られた石造物。形は楕円形。上面に長さ50cmほどの溝などが彫られている。酒船石の置かれている丘は、人工的に造られ、石垣の跡も残る。齊明天皇の時代に造られたものとみられるが、用途は明らかになっていない。日本書紀には、齊明天皇2年の条に「宮の東の石垣」と記され、平成12年には、丘の下に亀形遺跡も発掘され、何らかの儀式の場所と推定されている。

益田岩船



丘陵の岩船山の頂上(標高130mほど)にある巨大な石造物。とにかく巨大。東西11メートル、南北8メートル、高さ4.7メートル。数百年にはありそうなこの巨石は、どこから、どのような方法で、ここに運び込まれたのか。或いは、もともとこの地にあったものなのだろうか。人工的な痕跡は、何かを作ろうとした跡なのか。古代、天武天皇が、初めて占星台を立てるのは、「日本書紀」によると675年。天体観測をする占星台を作ろうとしたのか。様々な説が出されて面白い。